

ワークの方が、毎日、岡田式浄化療法をしに来てくださり、他人のためにこんなに尽くせる力はどこから来ているのだろう」と不思議でした。多くの人に支えられる体験を通して、医療や看護の原点をあらためて意識すると共に、看護師として何かお役に立てることはないかと考えるようになりました。

そういう思いが募る中で、現クリニックの前身であるMOA成城診療所の開設に向けお誘いをいただきました。

モチベーションを サポートする看護へ

所長でいらした新田和男先生からは多くのことを学ばせていただきました。まず感動したことは、本当に丁寧な総合的な診療をされることです。疾患別のスペシャリストの診療は、大学病院でたくさん見てきました。それとは全く違い、問診や聴診、触診をフル活用し、病気だけでなく一人の患者さんの全てと真向かっておられました。今思えば、その人の魂をも診ておられたと思います。そ

して、MOAには救いと幸せをイコールにするものがあるのではと思うようになりました。

当時は医療機器も十分ではなく、数値や画像に基づいた仕事をしてきた私にとって難しい壁にぶつかりました。ですが、患者さんの自然治癒力への働き掛けに重要な役割を果たす療養上の世話について再認識でき、自然順応、自然尊重といった哲学やナイチンゲールの看護論に立ち返るきっかけとなりました。

患者さんが何を求めているのかじっくりと耳を傾け、その表情や身体の様子を見つめること、そして疑問や不安に丁寧に対応していくこと。数値や画像にとらわれるのではなく、そうした患者さんと向き合う営みこそが大事なことで感じられました。さらに、私たちが直接何かをして差し上げるということだけではなく、患者さんの自助セルフケアを引き出すことの大切さも。

例えば糖尿病の患者さんに対しては、食習慣の改善と運動の継続が大事なわけですが、セルフケアというと、ひたすら努力を求めてしまいがちです。

でも、病気の背景はそれぞれであり、改善しようという気力さえも失われている患者さんもおられます。そうした際には、その方の持てる力を信じて、話に耳を傾け、小さな変化を大切にしながら「それはとても大事なことです」「それはすてきなお話ですね」との言葉掛けで、ぱつと表情が明るくなったり、和らいだり、また涙したり……。

心のスイッチみたいなものが入った時、少し力が湧いて自分が向かえそうな目標が見えてくるのだと思います。

私たちが大事にしたいことは、患者さんがセルフケアに向かうための動機付けと継続的なサポートです。主には寄り添い、傾聴、対話、観察です。これは、患者さんご本人に対してだけでなく、家族やその方を支えている方々に対しても同様です。

療院とネットワークが 連携するシステム

家族やネットワークの皆さんが、患者さんをサポートするシステムとしてサポートプランや相談シートが



あります。

一人では継続が難しい生活習慣改善への営みですが、身近に支えてくれる人がいることで、日常の喜びを共有したり、時にくじけそうな心に寄り添ってくれたりということが大変力になります。

そういった患者さんのサポーター

として、今のままで良いのか、この問題はどうか解決したら良いのだろうか、本当に真剣に患者さんに寄り添ってくださっていることが相談シートから読み取れます。

療院と健康生活ネットワークの連携システムは「ボランティア共助モデル」として日本統合医療学会の先

生方をはじめ、地域包括ケアに取り組む行政、医療、福祉の分野からも高い評価を得ています。

2013年には、日本統合医療学会で、全国の療院に関わる看護師が連携してまとめた「看護メモを活用した療養上の世話への取り組み」ナースはどうしたら患者の自然治癒力を引き出せるのか」をテーマに報告を行い、同学会より最優秀論文賞を頂きました。MOAの考えと実践が学会からも評価されたことを、大変うれしく思っています。

同じ年、東京療院は同

学会の認定施設になりました。療院の診療部門と健康法部門がトータルで認定されたことに、大きな意義を感じています。また、同学会の仁田新一理事長は、ケア型の病院が今の健康問題の解決の鍵になるという構想を示され、療院と健康生活ネットワークの連携システムがますます大切になっていくのではないかと感じています。

10月16日には、石川県金沢市で「第8回岡田式健康法研究会」が開催され「健康長寿社会のための看護師・保健師の役割」をテーマに特別セッションが行われます。看護界の重鎮である川嶋みどり・日本赤十字看護大学名誉教授、猪股千代子・札幌市立大学教授、緒方昭子・森ノ宮医療大学准教授と一緒して、私も東京療院における取り組みを報告する機会をいただきました。

患者さんの自然治癒力を高める岡田式健康法について、チーム医療によるケアの取り組み、また健康生活ネットワークとの連携などについて報告できればと考えています。大変緊張していますが有意義なセッションになるのではと楽しみです。